



生物多様性条約名古屋会議

1992年に採択され191の国と地域が締結。三つの目的があります。

1. 地球上の多様な生物を、その生息環境と共に保全
2. 生物資源を持続可能目的で活用
3. その利用から生じる利益の公正、公平な配分

2年に1度集まり、その10回目(COP10)が2010年10月11日から13週間、名古屋国際会議場でありました。会議内容は、様々な命がつながり合い支えあう大切さを考え、自然の恵みをどう生かして行くかを話し合う、国際会議です。

山国日本は、里山で長年にわたり生活の糧として、自然資源を伐採再生のサイクルで守りぬいてきた。唱歌「ふるさと」に歌われた日本の原風景が、1970年以降、化石燃料利用と工業化が進み、里山から都市部への人口流失が続き、特に最近では身近な自然が各地で姿を消している。

議長国日本は7000人が集う国際会議(COP10)で、長年にわたり自然との共生で、自然資源を大切にしてきた「里山」を世界にアピールするねらいがある。(以上は新聞2009・10・11の記事を参考)

COP10の素案

生物多様性の損失を止め、人類が享受する生態系サービスの恩恵を、持続的に拡大させていくことを中長期目標とする。(新聞記事2009.10.12)

COP10を終えて(1010・11・4朝刊社説)

各国とも利害関係に終始し、不可能とまで言われた途上国と先進国の歩み寄りを実現させた。

原風景

原風景とは、人の心に宿る原型をなす風景で幼・少・青年期における自己形成空間といわれる。景観と異なり自然環境、棚田や建物、鉄道など人の暮らが密着した郷愁を誘う風景である。都市化などでふるさとが大きく加工された場合は、感覚が心の中で再生した心象風景として旅先でよみがえる。原風景は個人、育った環境、年齢、感性により異なって感じる「心の風景」といえる。

エコツーリズム資源の魅力を体験

都市部と地域の交流をはかり、訪問先の自然と文化に触れながら人と環境のかかわりを体験する

文化を学ぶ

1. 自由散策、拝観できる神社寺院
2. 棚田があればその歴史
3. 伝説・民話を学ぶ
4. 歴史を伝える建物・民家
5. 展示館・博物館・史跡・公園
6. 重要文化財・無形文化財・伝統芸能
7. 公開可能な神事、祭り
8. 古道・石碑・石仏・道祖神・歌碑
9. 歴史とロマンの峠越え

自然を学ぶ

1. 名水・天然記念物・巨木の名称と特徴
2. 高原・湿原・分水嶺・溪流・滝・清流
3. ミズナラ・ブナ・モミなどの自然林
4. 植生と高山植物・山野草に咲く花
5. 登山ハイキングコースのある山
6. 花の名所・紅葉の名所
7. 入山可能な山菜・きのこが育つ自然林
8. 自然休養林・学術参考保護林の探訪
9. 森林浴、森林セラピーを体験

生態系を学ぶ

1. 年単位で生態系のサイクルを学ぶ
2. 野鳥・淡水魚・野生動物・昆虫
3. 赤とんぼと蛍の乱舞
4. カジカ・カエル・せみしぐれの夏
5. 森林生態系保護地域を訪ねる

産業とふれあい

1. 訪問先の産業を知る
2. 植林と自然林について
3. そば道場・陶芸・紙すきなどの教室
4. 山菜教室・きのこ教室
5. 産地直販・特産品の販売
6. 日帰り温泉で訪問先の人とのふれあい

里山の生態系と自然の魅力

